

2022年度研究助成課題が決定しました

2022年度の研究助成は、個別研究助成課題50課題・育成研究助成20課題の応募があり、理事会で審議の結果、次の通り決定しましたのでお知らせします（応募順、申請時の所属）。高い評価を得た課題が多かったため、育成研究助成は予定より1件多く採択されました。

個別研究助成（1年間）

氏名	所属	課題	助成金額 (万円)
山守 瑠奈	京都大学瀬戸臨海実験所 助教	日本列島におけるウニの巣穴の住み込み共生生物の多様性の解明	70
赤木 知裕 共同研究者：大高 明史、 高辻 渉	和歌山県工業技術センター地域資源活用部 主任研究員	排水処理に有用なウスベニイトミミズ（環形動物門貧毛綱ミズミミズ科）の生活史特性の解明	70
小木曾 正造 共同研究者：鈴木 信雄、 服部 淳彦、平山 順	金沢大学総合技術部 技術専門職員 金沢大学大学院自然科学研究科 博士後期課程2年（社会人）	特異的に浅海に生息するマシコヒゲムシ（環形動物シボグリヌム科）の光環境への適応に関する研究	70
白木 祥貴 共同研究者：角井 敬知、 下村 通誉	北海道大学理学院 修士課程1年	浅海性ウミナナフシ類の多様性の解明	70
高野 剛史	公益財団法人 目黒寄生虫館 研究員	寄生性腹足類における宿主上での棲み分けの検討	70
村山 慶季 共同研究者：半澤 直人	山形大学大学院理工学研究科 博士前期課程1年	ビゼンクラゲの再記載・有明海産種の新種記載のための調査研究	69.9
菅 孔太郎	岩手医科大学教養教育センター生物学科 ポスト・ドクター	マングローブに生息する朽木利用性多毛類の分類学的研究	70
福家 悠介	京都大学大学院理学研究科 博士課程3年	日本におけるミナミヌマエビの系統地理と近縁外来種の侵入状況	70
山本 心	広島大学統合生命科学研究所 博士課程前期1年	サンゴ礁生態系におけるシャコガイ類の役割	69.3
岸本 真琴	北海道大学水産科学院 博士後期課程1年	ミトコンドリアDNAのCOIおよびコントロール領域に基づく日本産ミズダコの集団構造	66.8

育成研究助成（2年間、金額は1年目交付額）

氏名	所属	課題	助成金額 (万円)
古川 真央	琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設 研修生（博士課程入学見込み）	生殖から探るミドリイシ属サンゴの種分化機構の解明	94.7
剣持 瑛行	東海大学大学院 生物科学研究科 博士課程2年	海産枝角類の食性と海洋食物網における役割の解明： メタゲノム解析と安定同位体比分析による多角的アプローチ	100
吉村 太郎	東京大学大学院理学系研究科 修士課程1年	化学合成貝類におけるバイオミネラル化を通じた硫黄毒機構	87.4
北畠 京祐	東邦大学大学院理学研究科 博士後期課程1年	環境特性の違いが海洋底生生物の sedimentaryDNA の動態に及ぼす影響—干潟最大の巣穴形成“アナジャコ <i>Upogebia major</i> ”の生息量の迅速定量法の開発を目指して—	100

編集後記

表紙のウミウシは頭楯目カノコキセワタ科のミョウジンツバメガイです。本種の体色は、通常は黒色のみですが、表紙のように白斑が散在するものや、体が灰色で黒色の縁がある橙色の斑点が散在するものなど、さまざまなようです。研究紹介のアデヤカイロウミウシ類とはグループが大きく異なり、触角や二次鰓はありません。主に砂底で見られ、無腸動物（うみうし通信 No.107参照）を餌とします。

今年は、5月21日に親子向け観察会（わくわくウォッチング）を無事に開催することができました。3年ぶりの実施で、フィールドで生物を見る楽しさを徐々に感じる事ができました。フィールドで研究をされている方たちも動きやすくなったのではないかと思います。今年度の助成課題もよい成果が得られることを願っております。